皇學館大学
CLL2025
15

Generative Link AI結
（ジェネラティブリンク あいむすび）

生成AIで暮らしを支える

生成AIを活用し、地域住民に役立つ生活情報を必要とする人に届く形で発信するCLL活動です。学生は三重県内の福祉専門職3団体（三重県社会福祉士会、三重県精神保健福祉士協会、三重県医療ソーシャルワーカー協会）と協働し、情報発信・取材／編集・AIリテラシーを学びながら、福祉を身近に伝えるコンテンツづくりに挑みます。

メンバー数：12名
活動場所：伊勢市
実施主体：三重県社会福祉士会
三重県医療ソーシャルワーカー協会
三重県精神保健福祉士協会
担当教員：大井 智香子、榎本 悠孝
土谷 長子（現代日本社会学部）
活動年度：R07

月別活動

7月　学内活動：
キックオフミーティング、拠点整備

10月　学外活動：
伊勢まつりでのAIラジオ番組作成／Geminiを使用した絵本作成

12月　学外活動：
協力団体主催「ソーシャルワーカーデイ inみえ2025」参加

学内活動：
NotebookLM、OpenAI.fm、castmakeを用いた音声コンテンツ作成（試作）

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

成果：キックオフ後に拠点整備を行い、学内で生成AIの基礎理解と演習を進めました。学外では伊勢まつりにおいて、来場者に届く形を意識しつつAIラジオ番組の試作およびGeminiを用いた絵本作成に取り組みました。12月には、本活動実施主体である福祉専門職3団体が主催する「2025年度ソーシャルワーカーデイin三重」に参加し、多くの現役ソーシャルワーカーから現場の声を直接伺う機会を得ました。なかには本学で社会福祉士資格を取得した先輩もおり、学生にとって将来像を具体的に描く手がかりとなりました。年末にはNotebookLM・OpenAI.fm・castmake等を用いた音声コンテンツ制作を試みました。各ツールの操作方法を学ぶとともに、生成AIの特性（得意・不得意、確からしさの点検の必要性）への理解を深め、表現の選択肢を広げました。

課題：本活動の初年度であったため、活動の進め方そのものを手探りで組み立てる場面が多く、企画から制作までに想定以上の時間を要しました。また、生成AIスキルの身につけ方についても、説明を聞いただけでは定着しにくく、実際の操作を重ねることで少しずつ修得していく必要がありました。あわせて、情報発信は“つくること”にとどまらず、“誰に何をどう伝えるか”が要であり、伝える相手に応じてツールや表現方法を工夫する必要があることを学びました。

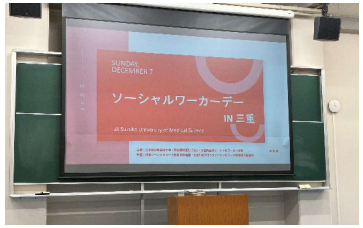
活動を通して学んだこと

「Generative Link AI結」の活動は始動したばかりということもあり、手探りで実践を重ねながらの活動になりました。活動を通して、AIは使い方次第で人と人を繋ぐ力を持つことや、正しく活用するための責任の重要性も学びました。特に伊勢祭りでのAIラジオや絵本制作では来場者の反応を直接感じることができ、AIを活用した表現の可能性を実感しました。同時に、制作体制や運用ルールの整備といった課題も明確になり、次年度はよりしっかりした体制で取り組める活動を目指していきたいです。今年度得た学びを今後の活動に生かし、さらに多くの人にAIの魅力を伝えていきたいと考えています。

実施主体からのコメント

一般社団法人三重県社会福祉士会
会長　平井俊圭様

本活動は、将来の福祉を担う学生が生成AIという先端技術を武器に、福祉の専門性を地域へ届ける画期的な挑戦です。福祉現場の人材確保が厳しさを増す中、AIを正しく使いこなせる人材の育成は急務と言えます。AIは正しく活用すれば、業務を支え、住民との繋がりを深める非常に強力な道具となります。初年度の試行錯誤を経て、次年度はより具体的な情報発信の形が確立されることを期待しています。専門職団体としても、学生たちの感性とAIがもたらす新しい福祉の姿を全力で応援します。



担当教員より

本活動は、生成AIを活用し、地域住民に役立つ生活情報を「必要とする人に届く形」で発信することをめざすCLL活動です。初年度は立ち上げ期であり、企画から制作まで手探りで進める場面も多く、想定以上に時間がかかりました。

伊勢まつりでの試作では、子ども一人ひとりの「つくりたい絵本」を丁寧に聞き取り、内容に反映することで、完成した絵本を目を輝かせて開く姿に出会いました。この経験は、相手に向き合い伴走するというソーシャルワーカーの基本姿勢と、その喜びを体感する機会となりました。12月の「2025年度ソーシャルワーカーデイin三重」では現役ソーシャルワーカーの声に触れ、活動の方向性を考える手がかりを得ました。

生成AIスキルは説明を聞いただけでは定着しにくく、実際の操作を重ねることで少しずつ修得していく必要があることを理解しました。あわせて、情報発信は「つくること」にとどまらず、「誰に何をどう伝えるか」を丁寧に考え、表現やツールを選ぶことが大切であることを学びました。今後は、今年度の学びを土台に、地域の生活課題を丁寧に受けとめ、確かな情報発信へつなげていきます。

成果物／制作物

こんな人におすすめ！

- 生成AIを使って、地域に役立つ情報発信をしてみたい人
- 福祉の現場（専門職）と協働する活動に関心がある人
- 音声・動画など、コンテンツ制作に挑戦したい人